

TestEngineerとDeveloperの 良好な関係

作成者：松谷峰生

LINE Fukuoka株式会社

こんな場面に遭遇したことはありませんか？

- ・ Developer(以下Dev)「こんな細かい指摘ばかりして！」
- ・ TestEngineer(以下TE)「またデグレった！ もう！」
- ・ TE「このバグが仕様！？ ありえない！ 文句を言いたい！」

雰囲気が悪化。

業務効率悪化によるスケジュールの遅延。

コミュニケーション効率悪化により伝わらない情報や齟齬が発生。

それら影響によって品質が悪いプロダクトのリリース。

良い関係性の例

- ・ プロダクト初回リリース時、TEにプロダクトを渡す前にDevでブラックボックステスト実施
- ・ リリース作業は会議室をとって、TE/Devと一緒にリリースを実施
- ・ Devがテストに関心を持ち、積極的にTEに協力
- ・ 話しやすい環境にあるため、Dev/TE間で日程相談を行いやすい
- ・ TE/Devと一緒にバーベキューに行った

TE / Devどちらも目標は「良いプロダクトにする」

目指すところは双方とも、ユーザーの納得のいく良いプロダクトづくりである。

「バグを出すことが使命。バグは敵。それを阻む者も敵。バグを発生させる者も敵」という近視眼的で排他的な観点ではなく、『良いプロダクトにする』という共通目標をTE/Dev共に見据えなければならない

「良いプロダクトにする」ためのTEの立ち位置と考え方

我々TEの立ち位置はプロダクト全体の『最後の仕上げ』である。
我々TEの仕上げのテクニックがユーザーの満足度を大きく左右する。
プロダクトを完成させるために必要不可欠なメンバーである。

Devが無から有を生み出し、TEが生まれた物を綺麗に仕上げる。
その練磨によってはじめて『良いプロダクト』として昇華させることができる。

良好な関係でのメリット

- ・ 良好な関係を築けていると「このプロダクトに貢献したい」と自然に思える。
- ・ テスト独立性が言われているが、関係性が良いほうが結果的に業務進行がスムーズ。
- ・ コミュニケーションが取りやすく、情報共有が迅速。
- ・ 困ったことに助け合うことができる。
- ・ 仕事がしやすい

関係性を保つための6つの事例

1. 物理的に距離が近い

メールやチャットといった文字ベースのコミュニケーションの場合、問題が悪化することが多々ある。

相手の細かな表情が見えず攻撃的に話を進めてしまう、文字であるため考えが全て伝えられない。

つまりリアルタイムの状況に合わせて対処しにくいことが多い。

物理的に距離が近い場合、相手が見える。

口頭コミュニケーションで説明を補う、相手に伝わったのか伝わっていないのかがわかりやすいといメリットがある。

関係性を保つための6つの事例

2. おしゃべりをする / SNSでつながってみる

公私混同と思われることが多いが、アンオフィシャルな関係も業務効率に影響する。

たまにでも良いので世間話をする、相手の人となりが見える。
相手の人となりが見えるのと見えないのでは、関係性の保たれ方が変わる。

見えた方がより『協業している仲間』という意識が喚起できる。

関係性を保つための6つの事例

3. そのバグが仕様になったことは2日間愚痴をこぼす必要があることなのか？

愚痴は習慣化する。

口に出したことは思考にも行動にも影響する。

また愚痴は広がる性質を持つ。

良い関係性を保ちたいのならば、愚痴は口に出さないほうがよい。

愚痴るのではなく行動する。

なぜそのバグが仕様ではよくないのか考えを持っているはずである。

そのバグがあることによってどんなプロダクト品質リスクが発生するのか、

どんなビジネス上のリスクが発生するのか。

それをステークホルダに伝えようとしなければならない。

関係性を保つための6つの事例

4. デグレの発生は相手を責めたてる必要があるのか？

大小のプロジェクトにかかわらず、デグレは発生すると考えて良い。
そもそもデグレといったプロダクト品質リスクに気づくのが我々TEの分野の仕事である。

関係性を保つための6つの事例

5. 自分の意見は通したいが、人の意見は批判していないか

TEは自分が出したバグを過大評価する場合がある。
TEにとっての成果物の一つであるためである。

だが、そのバグを過大評価しすぎていないだろうか？
リリースブロッカーとは成り得ないバグだから優先度を下げたい、というDevの
意見に腹を立てていないだろうか？

考えるべきものは自分が出したバグではなく、全体から見てのそのバグの重要度である。

関係性を保つための6つの事例

6. 日本のコミュニケーションマナー（謙虚と尊重）

ビジネスシーンでは欧米的に自分の考えをストレートにぶつけることが合理的で良い、とされている。

だが我々は日本人であることには変わらない。

コミュニケーションには日本のマナーがあり、それにそぐわない場合は相手に不快な思いをさせる場合がある。

ストレートに意見をぶつけた場合、合理的に意見は伝わるが相手にとって気持ちのよいものではない。

意見をぶつけるときも相手への敬意、尊重は必要である。

海外の場合はその国でのマナーに合わせた伝え方が重要である。

例えば中国であればはっきりと意見を言わなければ伝わらない、といった風である。

Thank you.